

一貫した子育て・子育て・教育をめざしています！

教育委員会



あけましておめでとうございます。年明け初めての「村政の動き」は、教育委員会からです。

突然ですが、平成 19 年度に生まれた（予定）子どもの人数をご存じですか？ 15 人です。多いと思われますか？少ないと思われますか？下に最近の出生者数と幼小中の子どもの人数推移を載せています。

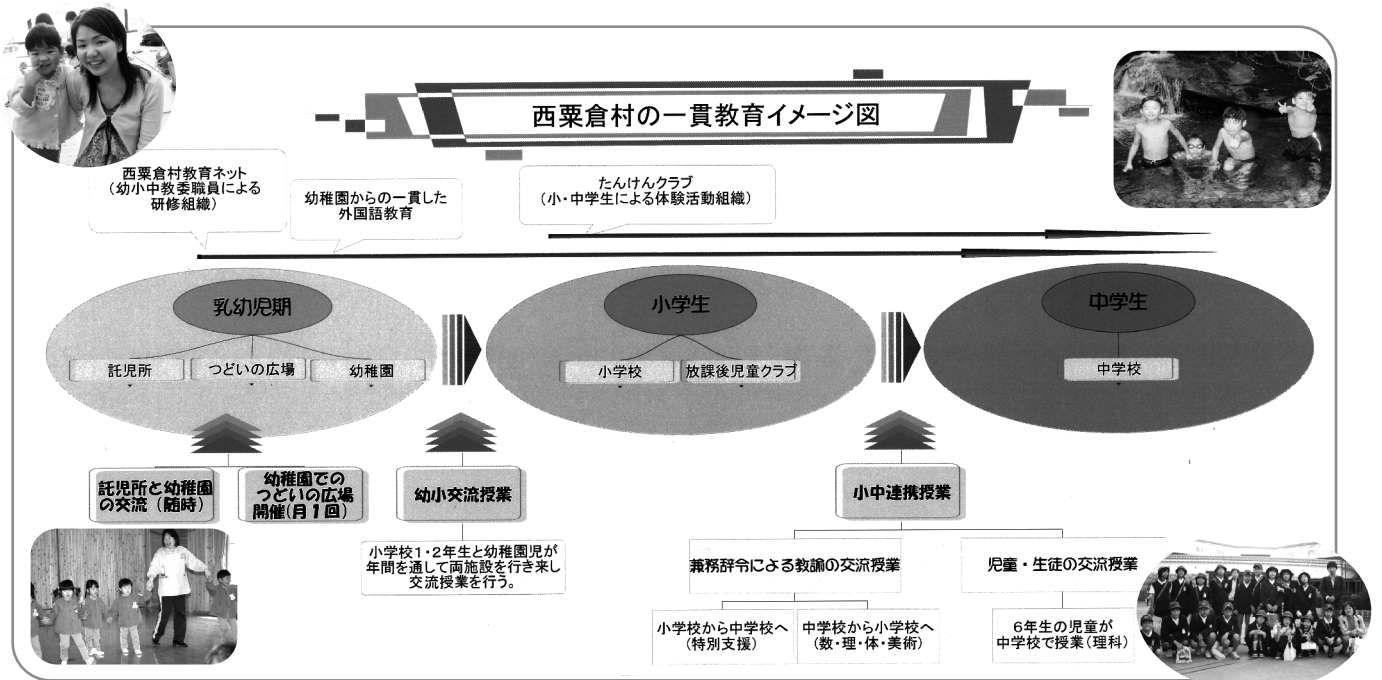


平成15年度～平成21年度（予定）の出生、園児、児童、生徒数の推移

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
出生数	8	10	18	8	15	?	?
幼稚園	27	25	31	32	32	30	36
小学校	87	86	77	69	66	61	62
中学校	66	54	53	46	46	46	40

子どもの数を増やすのは一朝一夕には無理ですが、では私たちにできることは無いのでしょうか？よく「少ないからできない」という言葉を聞きますが、私たちは「少ないからできる！！」「少なくともできる！！」ことを考えていこうとしています。

数の少なさを克服する手段の一つとして、未就園児からの一貫教育を進めています。



「一貫教育」という言葉は、最近時々新聞に出たりしていますが、私たちが目指すのはよくある校舎を一緒にすることではなく、乳幼児から中学校まで、一貫した関わりで子どもたちを育てることです。それによって、横の人数の少なさを学年を超えた縦の人数でカバーしていこうと取り組んでいます。

最後に、その取組の中から「小中連携」についてご紹介します。現在西栗倉では、中学校の先生が小学校に出向いて教えています。算数・理科・体育・図工を中学校の専科の先生が、小学生に教える機会を作ることにより専門的な指導が可能になると同時に、継続して子どもたちを見ていけるという利点があります。逆に小学校からは特別支援で中学校へ出向いて、小から中への引き継ぎをスムーズにしています。先生の交流と合わせて子どもたちの交流も進めることで一体感を作り出そうとしているのです。